

新型コロナウイルス感染症の拡大による 水道事業経営への影響について ②

令和3年11月検針分（主に9・10月使用分）

用途別の影響

令和3年11月分の検針データを前年（コロナ後）及び前々年（コロナ前）と比較すると、主に家庭用となる20mm以下の口径は、前年度との比較では、水量は約36,000m³、3%の減、料金は約390万円、3%の減となりました。また前々年度との比較では、水量は約55,000m³、5%の増、料金は約550万円、5%の増となりました。

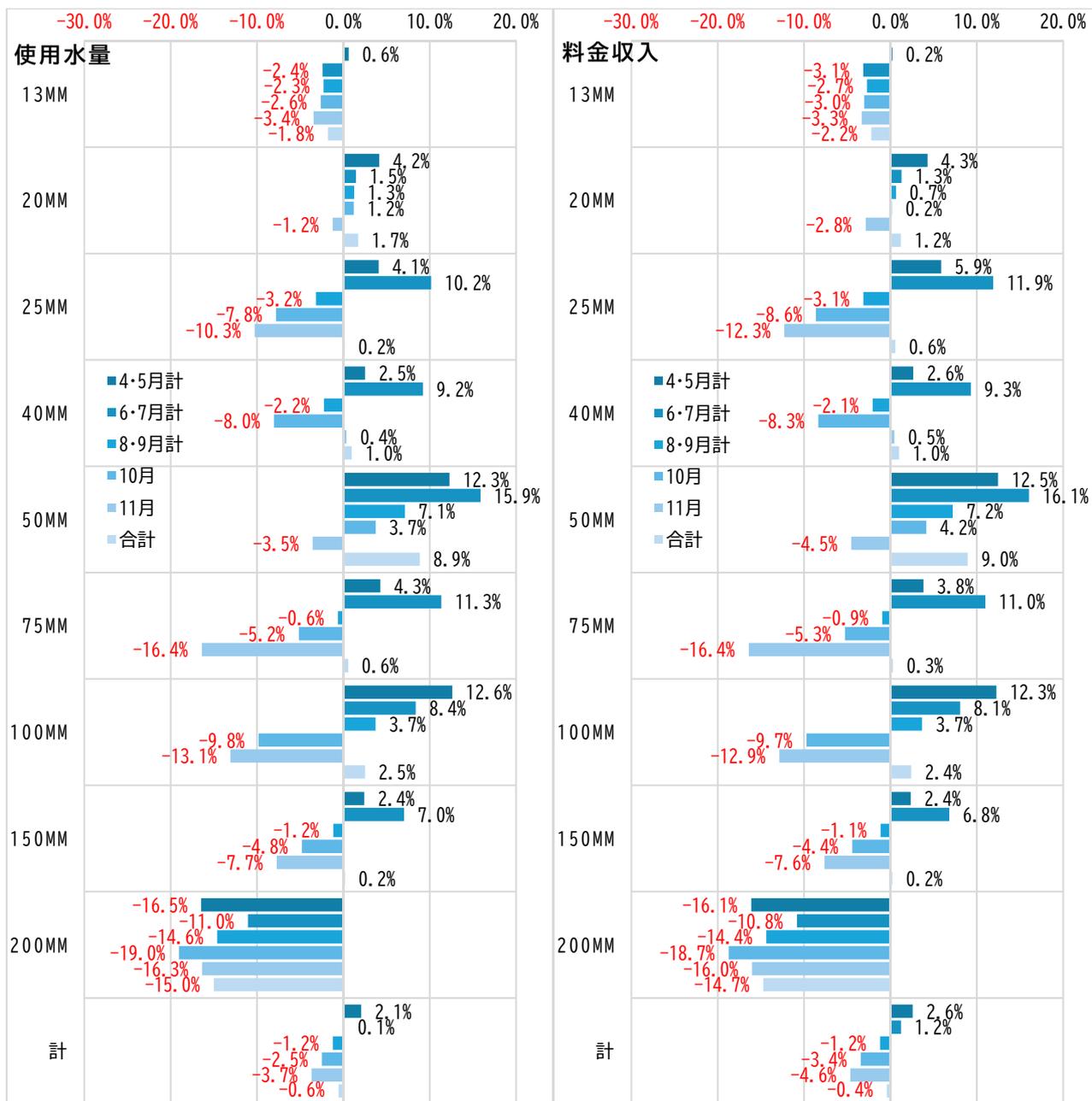
主に業務用となる25mm以上の口径は、前年度との比較では、水量は約16,000m³、8%の減、料金は約400万円、8%の減となりました。また前々年度との比較では、水量は約13,000m³、6%の減、料金は約320万円、7%の減となりました。

全口径の合計では、前年度との比較では水量は約53,000m³、4%の減、料金は約780万円、5%の減となり、前々年度との比較では水量は約42,000m³、3%の増、料金は約240万円、1%の増となりました。昨年度は、猛暑や巣ごもり需要の影響を受けており、前年度比では減となりますが、一昨年度は上回っています。

検針年	区分	11月検針分（9・10月使用分）		
		20mm以下	25mm以上	合計
R1	水量（m ³ ）	1,131,665	209,501	1,341,166
	金額（税抜き：円）	111,657,320	47,233,130	158,890,450
	供給単価（円）	98.67	225.46	118.47
R2	水量（m ³ ）	1,223,472	212,892	1,436,364
	金額（税抜き：円）	121,072,740	48,032,790	169,105,530
	供給単価（円）	98.96	225.62	117.73
R3	水量（m ³ ）	1,187,163	196,443	1,383,606
	金額（税抜き：円）	117,181,415	44,081,075	161,262,490
	供給単価（円）	98.71	224.40	116.55
対R2 増減 （コロナ後 との比較）	水量（m ³ ）	-36,309	-16,449	-52,758
	増減率	-2.97%	-7.73%	-3.67%
	金額（税抜き：円）	-3,891,325	-3,951,715	-7,843,040
	増減率	-3.21%	-8.23%	-4.64%
	供給単価（円）	-0.25	-1.22	-1.18
対R1 増減 （コロナ前 との比較）	水量（m ³ ）	55,498	-13,058	42,440
	増減率	4.90%	-6.23%	3.16%
	金額（税抜き：円）	5,524,095	-3,152,055	2,372,040
	増減率	4.95%	-6.67%	1.49%
	供給単価（円）	0.04	-1.06	-1.92
	増減率	0.04%	-0.47%	-1.62%

口径別の対前年変動率

口径別の対前年変動率を見ると、使用水量、料金ともに、40mmを除くすべての口径で減となりました。中でも20mmと50mmは、今年初めての減少となります。



※料金収入は、減額措置の影響を差し引いています。

考察

主に家庭用の20mm以下は7月連続、主に業務用の25mm以上は3月連続の前年比減となりました。しかしながら、20mm以下は、コロナ禍前の一昨年度を上回っており、新型コロナウイルス感染症の拡大による家庭での需要増は、いまだ続いていることが推測できます。また、総合計は、猛暑や巣ごもり需要のあった昨年度を4月連続で下回りました。

料金収入の3分の1を占める25mm以上をみると、40mmで増加に転じたものの、50mmは減少に転じ、25mm、75mm、100mm、150mmでは減少幅が拡大しました。

4月からのトータルでは、使用水量、料金収入ともに、今月になって初めて前年を下回ることになりました。堅調な家庭の需要を業務用の減少が吸収してしまった形になりますが、業務用の利用動向は、今後も注意深く観察する必要があります。